

近畿病院図書室協議会

第 19 回 総 会 報 告

近畿病院図書室協議会第19回総会は、1993年3月29日(月)午後2時15分より、淀川キリスト教病院本館5階講義室で開催された。当日の出席者は33機関、委任状提出機関は27機関であった。

白方誠彌会長は挨拶の中で昨今話題となっている製薬会社による文献複写自粛の動向に触れられ、病院図書室の機能強化が必要なのではないかと述べられた。この後、議長に七浦紀子氏(大津赤十字病院)、副議長に重富久代氏(京都市立病院)、書記に浜口恵子氏(高槻赤十字病院)を選出し、議案審議に移った。提出議案は7題でそれぞれ満場一致で可決された。

会長、事務局長は役員会で選出された現白方誠彌会長、現小田中徹也事務局長がそれぞれ承認され、役員改選では幹事9名、会計監査2名が選出された。

なお、総会に先だって京都大学名誉教授・島根医科大学前学長の檜學先生による特別講演「科学の芽生えとその発展」が行われた。

議案日程

- 議案Ⅰ 平成4年度活動報告
- 議案Ⅱ 平成4年度会計報告・監査報告
- 議案Ⅲ 平成5年度活動方針
- 議案Ⅳ 平成5年度事業計画
- 議案Ⅴ 平成5年度予算
- 議案Ⅵ 役員改選
- 議案Ⅶ 会長・事務局長承認

動基盤に重要な意味を持つ年であった。

まず、会の設立以来、隔月に発行されていた「近畿病院図書室協議会会報」は3月に通巻100号をもって終刊とし、別に年刊で発行されていた会誌『病院図書室』に統合してこれを季刊で発行することにした。装いも新たな会誌(12巻1-2号 May '92)は会内外から好評裡に迎えられ、『医学中央雑誌』(同刊行会発行)へは新たに収載されることになった。また『図書館雑誌』(日本図書館協会発行)でも病院図書室関係では唯一の記事収録の対象誌となっている。このことは図書館界と医療界の一つの橋渡しの場になるものと、関係者一同期待と責任の大きさを感じている。

次に、日本病院会主催の全国図書館研究会が9月3～4日に神戸市で開催され、関西で開催された今年はこれまで同様に当協議会が企画や運営に協力した。今回は特に評論家の鶴見俊輔氏を招き「臨死の読書と回復期の読書」と題する特別講演をお願いした。また、メインテーマを「資料の保存」とするプログラムでは、日本図書館協会資料保存委員会の二宮嘉須彦氏には保存の考え方、

議案Ⅰ 平成4年度活動報告

はじめに

平成4年度の当協議会は会誌発行形態の変更、全国的研究会の企画運営そして会名称の検討と、事業活動や活

宇部短期大学の昼馬逸郎氏には分担保存、大阪府立夕陽丘図書館の前田章夫氏には著作権法についてそれぞれ講演して頂いた。さらに、シンポジウム〈病院図書室における資料の分担保存と廃棄〉では活発な質疑応答があり、この問題にたいする関心の高さが窺われた。

ところで、当協議会の会員構成は近畿外からも神奈川から福岡県まで16機関、現在の会員77機関の2割を占め、病院の他に医療教育施設からも8機関が会員となっている。そうした中で、近畿地区外の会員からは発足以来の名称「近畿病院図書室協議会」から「近畿」を外して、ネットワークの枠組拡大をとの要望が以前から出されていた。これは組織活動の内容にもかかわる事柄であるため、改称について会員の意向を問うことにした。そこで、12月にアンケートを実施し今年1月末の集計では77会員中、28機関からの回答であった。数字的な結果だけみると、改称について賛成が14機関、反対が8機関、判断不可が6機関であった。この結果からは、また総回答数からも改称の是非を判断するには早計であろう。しかし、おおよその傾向は窺うことができたし、特に病院図書室の独自組織の必要性と当協議会にたいする高い期待と評価が数多くあった。(総会資料「当会の名称についてのアンケート結果報告」を添付)

その他、懸案になっている『総合目録』改訂版については、編集特にデータ点検作業が予想以上に繁雑であったことや編集委員会委員の病院業務上の要因などから、発行予定期日を大幅に遅れることになってしまった。会員の皆様にはお詫びしなければならない。なお、定例研修会や見学会の開催、年次統計調査などの継続事業は例年通り順調に実施された。このうち、今年度の第4回名古屋研修会については初めて東海地区の会員が実行委員会を組織して企画・運営にあたったことは意味深い。

I-1 各事業部報告

I-1-1 研修部

〔第65回研修会〕

日本病院会全国図書室研究会と併催
主催：社団法人日本病院会
後援：近畿病院図書室協議会、病院図書室研究会
日時：1992年9月3日(木) 13:00～17:00

1992年9月4日(金) 10:00～16:30
会場：兵庫県民会館 11階ホール
会費：会員病院・後援団体加入施設 6,000円
非会員病院 10,000円

プログラム：

テーマ「資料の保存について」

第1日 9月3日(木)

1. 特別講演「臨死の読書と回復期の読書」
講師 鶴見俊輔(評論家)
座長 船戸正久(淀川キリスト教病院病歴図書部長)
2. 講演「図書館における資料保存の考え方」
講師 二宮嘉須彦(日本図書館協会資料保存委員会委員長)
3. 講演「中国四国地区におけるバックナンバーの分担保存制度」
講師 昼馬逸郎(宇部短期大学教務課長)

第2日 9月4日(金)

1. 講演「ADONISについて」
講師 平山恵三(佛紀伊國屋書店国際情報部関西オンライン課課長)
2. 講演「著作権について」
講師 前田章夫(大阪府立夕陽丘図書館)
3. シンポジウム「病院図書室における資料の保存と廃棄」
 - ①資料保存上の諸問題
千住とも子(日生病院図書室)
 - ②資料の分担保存
加島民子(大阪回生病院図書室)
 - ③資料の廃棄(廃棄基準を含む)
飯田育子(浜松赤十字病院図書室)
 - ④資料の保存方法の動向
前田元也(西淀病院図書室)座長 戸津崎茂雄(京都市南病院副院長)

参加者：73名

〔第66回研修会〕

日時：1992年12月15日(火) 10:00～16:00
場所：回生看護学院 3階大教室
会費：会員 1,000円
非会員 1,500円
プログラム：

1. ビデオによる図書館利用案内

講師 原 栄子(羽衣学園短期大学)

2. 「医学の基礎知識」麻酔のおはなし

講師 久富義郎(大阪回生病院麻酔科部長)

3. 看護系の資料について —単行書を中心に—

講師 山添美代(元聖路加看護大学図書館)

4. 外国雑誌の一括発注方式について

①アクセス方式という販売方法について

一見益男(紀伊國屋書店)

②丸善MACS2の導入例

荒川直子(厚生連更生病院図書室)

③—アンケート報告—

近畿病院図書室協議会加盟機関における外国雑誌の購入方法の現状

座長 泉谷嗣郎(大阪赤十字病院図書室)

参加者: 27名(うち非会員1名)

〔第67回研修会〕

日時: 1993年3月29日(月) 10:00~12:00

場所: 淀川キリスト教病院 5階講義室

会費: 500円

プログラム(事例報告会):

①当図書室の個人図書購入斡旋について

山崎捷子(淀川キリスト教病院)

②2年間の図書室業務を振り返って

松田智恵子(大阪府済生会泉尾病院)

③丸善外国雑誌の一括発注方式を利用して

七浦紀子(大津赤十字病院)

④図書室の年次報告書の作成

木下久美子(高山赤十字病院)

⑤院内報の発行

首藤佳子(星ヶ丘厚生年金病院)

参加者: 36名(うち非会員3名)

〔第4回名古屋研修会〕

日時: 1992年10月31日(土) 10:00~16:00

場所: 社会保険中京病院 健康管理センター2階集団指導室

会費: 会員 1,000円

非会員 1,500円

プログラム:

1. 講義「必要とされる情報(資料)を提供するために—担当者役割と必要な知識—」

講師 木下久美子(高山赤十字病院図書室)

2. 講義と実習「"CD-ROM" 情報検索の有効な手段として」

協力 丸善㈱メイシス関西センター

参加者: 22名(うち非会員6名)

〔第2回勉強会〕

日時: 1992年6月18日(木) 13:00~17:00

場所: 回生看護学院会議室

会費: 500円

テーマ: 利用者サービスについて

参加者: 12名(うち研修部4名)

〔大阪大学生命科学図書館見学会〕

日時: 1992年11月19日(木) 14:00~15:30

参加者: 15名

今年度は全国図書室研究会(以下全国研)を含め3回の研修会と名古屋研修会、勉強会、見学会を企画し開催した。

全国研と併催した第65回研修会は開催地を神戸とし、メインテーマには「資料保存」を取り上げた。限られた図書室スペースで資料をいかに保存していくか、表裏一体である保存と廃棄という問題、また、資料保存の別の問題として酸性紙による本の崩壊ということがある。今、協議会で準備中である分担保存も含め、講演、シンポジウムを通して様々な角度から資料保存の問題を考えてみることにした。特別講演には評論家の鶴見俊輔氏をお招きした。当日の研究会の内容は会誌「病院図書室」第12巻4号(1992)と日本病院会雑誌には第39巻12号(1992)以降に継続して掲載されている。

第66回研修会は、最近導入する図書室が増えてきたことから外国雑誌の一括発注方式を取り上げた他、山添氏には今回は看護系の資料について、単行書を中心とした講義をお願いした。シリーズの「医学の基礎知識」は麻酔について、またビデオを使った図書館利用案内の事例を報告していただいた。外国雑誌の購読料は年々上昇する一方であり、一括発注方式のメリット、デメリットについて研修部として今後も注目していきたい。

第67回研修会(事例・研究報告会)には5題の演題が提出された。今回はいずれも図書室業務からの事例報告であった。

今年で第4回となった名古屋研修会は、企画から運営まですべて名古屋地区の会員に委ね、実行委員会を組織

し準備が進められた。プログラムは今回も初心者向けの実務を中心とし、会場には中京病院の協力が得られた。参加者はこれまでに比べ少なかったが、研修意欲をもった参加者に固定され、東海地区の研修会として定着してきたように思う。

勉強会 2回目の今年は「利用サービス」をテーマに年次統計調査用紙を資料に使い研修した。円卓会議形式で12名と少人数であったため、日常業務の問題点・疑問点などを自由に話し合え、なごやかな雰囲気の中で進められた。前回とともに参加者からは好評であり、新任担当者のための実務研修会として今後も継続していきたい。開催前大阪回生病院の新図書室を見学した。

見学会 大阪大学生命科学図書館は生命科学分野全域に拡大された図書館として昨年吹田市に新築移転された。かねてより会員から生命科学図書館の見学希望があったので、協議会から申し入れ実現することができた。会員の希望があれば今後もこのような見学会を企画していきたい。

<まとめ>

全国研は年1回、(社)日本病院会が主催する研修会で、これまで隔年に協議会が協力して近畿地区で開催されてきた。協議会では研修会を全国研と併催し、研修部は会場決定から企画・運営までその準備に半年近くをかけて行ってきた。今年度も例年通りということで全国研を引き受けたのであるが、日本病院会の方針が変わっていたことから双方に数多くの行き違いがあった。日本病院会における図書室研究会の委員が増員、充実されたこと、協議会会員の参加が毎回25・6名程度であることから全国研に協議会が協力する件については、検討する時期にきたのではないかと思う。

今年度も前半は全国研の準備に追われ年間スケジュールを検討することができなかった。会員が年間計画を立てられるように、来年度は早い時期に企画を行い1年間の研修スケジュールの案内ができるようにしたい。また、研修内容について、会員の意向を知るためのアンケート調査を行う予定である。その結果も参考により多くの会員が参加できるような、内容の充実した研修会を企画したいと思う。

事例報告会の演題が集まりにくいという懸案事項は今年度も解決できなかった。継続していくのか、それとも他の企画を考えた方がよいのか、事例報告会そのものを見直す時期にきているように思う。

今年度は研修部員として、社会保険神戸中央病院の林伴子氏、名古屋第一赤十字病院の大平美里氏の協力を得た。

今年度の研修部予算は150,000円で支出は193,231円となり、43,231円の赤字であった。

研修会参加費は、67,000円であった。

I-1-2. 編集部

今年度は従来の会報、会誌を統合して機関誌「病院図書室」を発行した。これに伴い、発行サイクルはJan.～Dec.に、発行頻度はQuarterly(2,5,8,11月)に変更となった。巻数は今までの会誌の巻数を引き継いで12巻としたが、1号は協議会活動年度では前年度に入るため、1/2合併号として5月に第1冊目を発行した。変更初年度のため、不十分な点はあったが、一応今年度の予定号数を発行することができた。

ページ数の増加によってまとまった記事の掲載が可能となり、読者からはおおむね好評で迎えられた。また、編集面でも従来より企画、編集が容易になった。したがって、今のところ発行形態の変更は好結果を生んでいると言えよう。なお、経済的な側面、編集部員の労力の面等からはさらに検討が必要である。

なお、本誌は1993年から医学中央雑誌に掲載されることになり、また1992年より「図書館雑誌」の資料室欄にも全号Indexされるようになった。より広い範囲に内容を伝える手段を得たことは喜ばしいことである。

1. 発行日と内容(別紙のとおり)

12/1・2号	1992.6.25. (5月、1カ月遅れ)
12/3号	1992.9.16. (8月、半月遅れ)
12/4号	1992.12.25. (11月、1カ月遅れ)

2. 発行経費

発行経費は会報18巻5/6号(通巻100号)が70,751円、12巻1/2～4号が911,218円の合計981,969円であった。したがって、予算870,000円に対して111,969円の赤字であった。

3. 広告収入

丸善(25,000円)、ナカバヤシ(40,000円)、厚生社

(20,000円)、紀伊國屋(40,000円)、ユサコ(12,000円)、金剛(12,000円)

総計 149,000円

4. 現在の発行部数 200部

購読 38部、寄贈 26部、交換 6部

5. 編集方針と記事内容

新しい機関誌は、病院図書室に即した記事作りを編集方針にしている。その中で、まず「資料」と「資料へのアクセス」に注目して企画を行った。

また、内容は各号特集とシリーズ記事の組み合わせとした。現在用意しているシリーズは、「巻頭言」「臨床に役立つ雑誌」「Medical Essay」「実務シリーズ」「医学用語あれこれ」「リソースライブラリー」「病院図書室紹介」「図書館員の四季」等で、シリーズは頁数の関係で、号によって分散する予定である。その他、総会報告および会員の学会発表抄録は各巻2号(5月)、会員名簿は各巻4号(11月)、幹事会報告や会員異動は毎号掲載の予定である。3号を発行したのみで評価は難しいが、今後も時宜になかった企画と現場主義に徹して編集する予定である。

6. 編集体制

現在、編集部員は首藤、田中、中嶋、浜口、前田、山崎の6名で、編集会議で企画決定し、原稿依頼、原稿整理、割付、校正、発送等の仕事を分担して編集を行った。業務多忙な中での編集作業はそれぞれの部員に心身ともかなりの負担を強いているが、現在特に解決すべき問題はない。

編集会議は今年度3回開催した。開催場所は以下のとおり。

- 第1回(1992.7.2) 回生看護学院会議室
- 第2回(1992.10.29) 大阪回生病院小会議室
- 第3回(1993.3.2) 大阪回生病院小会議室

7. 今後の課題

(1)編集体制の強化—編集部員の任期、および役割を決めて責任をもって継続できるような体制にすること。また部員の負担が長期間続くことを避ける工夫が必要だと思われる。

(2)定期刊行を果たすために編集のスケジュールを整備すること。

(3)購読会員を拡大すること。

(4)広告収入を増やすこと。

I-1-3. 統計調査部

1. 重複雑誌目録作成について

a.調査対象雑誌：1991年1月～12月発行の和・洋雑誌で協議会各図書室が重複して受け入れたもの

b.調査時期：1992年4月～5月

c.作業経過：

1992.4.20 重複雑誌調査用紙発送
(協議会会員77機関宛)

1992.5.30 回答締切日

1992.7.20 重複雑誌目録発送(会員宛)

d.参加病院：24施設

〔内訳〕名古屋第一赤十字、日赤愛知女子短大、大津赤十字、長浜赤十字、京都市立、京都南、大阪通信、大阪府立成人病センター、大阪厚生年金、住友、耳原、大阪労災、高槻赤十字、西淀、関西鍼灸短大、医真会八尾、西宮市立中央、国立姫路、済生会兵庫県、和歌山労災、島根県立中央、社保広島市民、近森、福岡徳洲会

e.重複雑誌タイトル数：159誌(和雑誌80、洋雑誌79誌)

2. 年次統計調査の実施と報告書の作成について

a.調査対象機関：協議会会員77機関

b.調査対象期間：1991年4月～1992年3月

c.調査時期：1992年8月～9月

d.調査項目：1.施設の状況 2.施設・建物 3.職員
4.図書委員会 5.蔵書 6.経費 7.整理業務 8.利用者統計 9.視聴覚資料 10.図書出版物 11.所蔵二次資料

e.作業経過：

1992.7.30 幹事会において年次統計調査一部変更の承認を受ける

1992.8.10 年次統計調査用紙発送

1992.9.10 回答締切日

1992.12. 未提出施設に電話による督促

1993.1～2 年次統計調査集計作業および印刷

1993.2.27 年次統計調査報告書発送(会員および地域病院図書室ネットワーク6機関)

f.参加病院：53施設(参加率69%)

g.経 費：7,000円

3. 文献相互貸借件数(1991.4～1992.3)

- (1)相互貸借サービス実施施設 43 施設(81%)
- " 非実施施設 10 施設(19%)

(2)受付件数(貸し)

*平成2年度中にサービスをしなかった施設 9 施設

a.総件数 2,707 件 / 37 施設 平均74件
最大 358件、最小 1件 (このうち現物貸し5件)

b.相手施設

協議会加盟施設：31施設で延べ399施設宛にサービスをしており、1施設当たり平均10施設にサービスをしていることになる。

協議会外の施設：21施設が協議会外の施設にもサービスをしており、延べ59施設で、1施設当たり平均3施設にサービスをしていることになる。

(3)依頼件数(借り)

*平成2年度中にサービスをしなかった施設 5 施設

a.総件数 6,399件 / 38 施設 平均168件
最大 839件、最小1件

b.依頼先別件数

依 頼 先	件 数 (%)	平均件数
協 議 会 加 盟 施 設	1,951 / 38施設(31.2%)	51件
JMLA近畿地区加盟館	1,231 / 38施設(20.0%)	33件
JMLA近畿外加盟館	2,275 / 38施設(36.4%)	60件
海外(BLDS C等)	11 / 38施設(0.2%)	0.3件
そ の 他	779 / 38施設(12.0)	21件

*現物借り3件

I-2. 組織活動について

I-2-1. 幹事会

今年度の幹事は9会員からなり、以下に示す主な議題について協議した。特に全国図書室研究会と会名については回を重ねて討議した。

- ① 4/13 ; 淀川キリスト教病院(幹事の担当事業決定、

各事業部年間計画、全国図書室研究会の企画)

- ② 6/11 ; 星ヶ丘厚生年金病院(各事業の経過報告と協議、全国図書室研究会の準備状況)
- ③ 7/30 ; 大阪労災病院(各事業の経過報告と協議、日本病院会との交渉経過について)
- ④ 10/ 8 ; 京都南病院(各事業の経過報告と協議、会名称について)
- ⑤ 12/ 3 ; 回生看護学院(各事業の経過報告と協議、会名称についてのアンケート調査)
- ⑥ 2/ 4 ; 国立京都病院(年間総括、役員会、総会の準備)
- ※ 6/ 7 ; 東海地区連絡会(名古屋市内で、事務局と当地区会員との間で名古屋研修会と協力活動のあり方を協議)

I-2-2. 役員会

平成5年3月10日、淀川キリスト教病院において開催され、白方会長司会の下、事務局、各事業部から今年度の事業活動について報告審議された。このうち特に会の財政補強、全国図書室研究会への今後の対応、会名の取扱いについて協議を集中した。

来年度の会長と事務局長には、白方誠彌(淀川キリスト教病院院長)現会長、小田中徹也(国立京都病院図書室司書)現事務局長が、会則第7条によりそれぞれ再選出された。

毎年のことではあるが、役員病院の管理者からの出席は低調であった。従来のように年度末の3月開催は各病院内の行事や会議も多く多用と思われるので、来年度からは2月中に当役員会を開催することにした。

I-2-3. 会員の状況

会員数：77 機関(近畿外；17 機関、病院外；7 機関)

異動：入会；済生会兵庫県病院(兵庫)

大阪府済生会泉尾病院(大阪)

小牧市民病院(愛知)

退会；なし

I-2-4. 対外交流

(1) JMLAおよび近畿地区医学図書館協議会

第54回地区例会(5/12 神戸大学)に幹事の松本純子氏と林伴子氏出席。JMLA第63回総会(5/28-29 九州歯科大学)に幹事の加島民子氏出席。この他にも出版物の協会会員価格での頒布や国際学会、各種研修会の案内があり、例年通りの交流があった。

なお、JMLAでは「将来計画委員会基本問題検討部会」が財政改善などの諸提案と併せ、病院図書館との新しいネットワーク形成の構想を今年度総会へ答申した。ここで注目されるのは入会基準の撤廃と個人会員制度の導入であり、具体化に進むかが注目される。

(2) 日本病院会

今年度の全国図書館研究会(9/3-4 神戸)の開催については例年通り企画から運営まで協力した。企画準備の段階で日本病院会図書委員会との間に従来とは解釈の違いを来したが、参加者70名からは内容の充実を称賛された。今後も従来の方で協力できるかについては再検討の余地がある。

(3) その他

病院図書館研究会(関東中心)や県単位の病院図書館ネットワークとは今年度も出版物の交換や講演などの交流を行った。その他、関連学会での会員の発表や雑誌への投稿があった。(学会・論文発表参照)

I-2-5. 学会、論文発表

[学会発表]

- (1) 第9回図書館情報サービス研究大会(5月、京都)
小児病院図書館の連絡会の活動
大阪府立母子保健総合医療センター
徳田 雅子
- (2) 第9回図書館情報サービス研究大会(5月、京都)
病院図書館と生涯学習
社保広島市民病院 岡橋 郁子
- (3) 第9回図書館情報サービス研究大会(5月、京都)
CD-ROMの利用状況
日生病院 千住とも子
- (4) 第9回図書館情報サービス研究大会(5月、京都)

本院図書館の機能評価

社保中京病院

大橋真紀子

- (5) 第9回図書館情報サービス研究大会(5月、京都)
初心者のための病院図書館業務のコンピューター化

* 済生会下関総合病院

野原 千鶴

京都南病院

山室真知子

(*は非会員)

- (6) 第42回日本病院学会(6月、大阪)

コンテンツサービスについて

淀川キリスト教病院

山崎 捷子

船戸 正久

- (7) 第42回日本病院学会(6月、大阪)

大阪労災病院におけるCD-ROM 文献検索の利用状況

大阪労災病院 松井美妙枝、田中 道夫

- (8) 日本病院会全国図書館研究会(9月、神戸)

シンポジウム「資料の保存と廃棄」

資料保存上の諸問題

日生病院

千住とも子

- (9) 日本病院会全国図書館研究会(9月、神戸)

シンポジウム「資料の保存と廃棄」

資料の分担保存

大阪回生病院

加島 民子

- (10) 日本病院会全国図書館研究会(9月、神戸)

シンポジウム「資料の保存と廃棄」

資料の保存方法の動向

西淀病院

前田 元也

- (11) 病院図書館研究グループ講演会(11月、甲府)

京都南病院の患者サービス

京都南病院

山室真知子

[論文執筆]

- (1) 小田中徹也(国立京都病院)
図書館年鑑 1993 年版 日本図書館協会
近畿病院図書館協議会紹介
- (2) 小田中徹也(国立京都病院)
病院図書館のネットワークと活動
日本病院会雑誌 39(4) : 583-587, 1992
- (3) 大平美里、笠原廣子(名古屋第一赤十字病院)
病院図書館機能標準化マニュアル(案)よりみた愛知県病院図書館の実態
医学図書館 39(5) : 150-155, 1992

- (4)首藤佳子(星ヶ丘厚生年金病院)
看護婦、コメディカルスタッフの利用状況
日本病院会雑誌 39(5) : 755-758,1992
- (5)青山真奈美(公立陶生病院)
事務職員の利用状況
日本病院会雑誌 39(5) : 758-760,1992
- (6)森川治美(松坂中央病院)
各地区病院図書室のネットワークと活動(三重県
病院図書室研究会)
日本病院会雑誌 39(5) : 752-753,1992
- (7)後藤久恵(島根県立中央病院)
各地区病院図書室のネットワークと活動(島根県
医療関係機関図書室懇談会)
日本病院会雑誌 39(5) : 753-754
- (8)佃貴美子(阪和記念会館)
病院図書室の設計、プランニング
日本病院会雑誌 39(7) : 1103-1105,1992
- (9)小田中徹也(国立京都病院)
資料の保存における課題と対応
日本病院会雑誌 39(12) : 1967-1969,1992

(1) 規格用紙の利用状況

規格用紙の種類	利用枚数	機関数	売上金額
相互貸借用往復ハガキ(2-L 入)	2,000枚	3	30,900
相互貸借用往復ハガキ(2-L なし)	0	0	0
逐次刊行物受入カード(A 様式)	600	3	8,652
逐次刊行物受入カード(B 様式)	400	3	5,768
合 計	3,000枚	9 機関	45,320

* 売上金額には消費税を含む

(2) 規格用紙の受払状況

規格用紙の種類	繰越枚数	作成枚数	売上枚数	残 部
相互貸借用往復ハガキ(2-L 入)	0枚	2,000	2,000	0
相互貸借用往復ハガキ(2-L なし)	150	0	0	150
逐次刊行物受入カード(A 様式)	550	300	600	250
逐次刊行物受入カード(B 様式)	0	500	400	100

(3) 規格用紙関係 現金の出納

収 入	金 額	支 出	金 額
前年度 繰越金	10,925	ハガキ・カード作成費 (914.00 x 3000)	42,000
		消費税	1,260
今年度 売上金	45,320	送 料	2,370
		包装 BOX	340
合 計	56,245	合 計	45,970

来年度繰越金 10,275円

I-3. 会員委託サービスセンター

議案II 平成4年度近畿病院図書室協議会
会計報告・監査報告

I-3-1. BLLDセンター(1992.2.21~1993.2.20)

1.クーポンの出納

前年度よりの繰越クーポン	49枚
今年度払出クーポン	7枚
クーポン残り枚数	42枚

2.現金の出納

前年度繰越金	22,340円
今年度クーポン利用料	6,000円
残 高	28,340円

3.センターの利用状況

- (1)利用件数 8件(うち謝絶3件)
(2)利用した施設 5病院(大阪厚生年金、住友、
京都南、大津赤十字、府立母子保健)

I-3-2. 規格用紙サービスセンター

収入の部

単位:円

費 目	千 算 額	決 算 額	差引増△減	備 考
前年度繰越金	633,824	633,824	0	
全 費	1,270,000	1,065,000	△205,000	※4 67会員 1,005,000 ※3 2会員 30,000 入金金 3会員 30,000
事業収入	819,500	213,000	618,500	
会費合計(委託会費)	(138,000)	(134,000)	△4,000	※4 32会員 ※3 2会員
繰越金合計	(584,000)	(0)	△584,000	
研修会費	(97,500)	(67,000)	△30,500	※64回研修会、第2回 勉強会、第4回名古屋 研修会、第66回研修会
その他		(12,000)		会費売上 12回
その他		170,528		会費広告料 163,000 銀行利息 1,528
	2,783,324	2,142,352	△640,972	

(支出の部)

単位:円

費 目	予 算 額	決 算 額	差引 増△減	備 考
総 会 費	70,000	62,646	△7,354	選挙費用、議案書費用 特別印刷費、交通費
専 務 費	50,000	30,957	△19,043	紙心料、封筒印刷、年 費印刷
通 信 費	50,000	71,989	21,989	事務局、各部会誌、 会員通知印刷費
交 通 費	250,000	208,880	△41,120	役員会、幹事会、各部 会、某人近畿地区研会
事 業 費	2,120,000	1,250,180	△869,820	
会報誌発行費	(870,000)	(981,969)	(111,969)	会報番号・会誌1巻 1-4号印刷、院誌科 執筆料、その他
研修会費	(150,000)	(152,231)	(2,231)	第4回研修会、第2回 幼生会、第4回名古屋 研研会、第4回研修会
総合誌改訂版	(800,000)	(0)	△800,000	
その他の事業	(300,000)	(74,980)	△225,020	年次統計報告平成3年 管理職22日誌平成4年
資 料 費	100,000	0	△100,000	
雑 費	143,324	11,000	△132,324	某人社会参加費
(合 計)	2,783,324	1,635,652	△1,147,672	

平成4年度 会計監査

単位:円

収 入	決 算 額	支 出	決 算 額
前年度繰越金	593,824	総 会 費	62,646
会 費	1,865,000	専 務 費	30,957
		通 信 費	71,989
事業収入	213,000	交 通 費	208,880
会報誌購読会費	(134,000)		
		事 業 費	1,250,180
雑誌誌会費	(0)	会報誌発行費	(981,969)
		研修会費	(152,231)
雑誌誌会費	(67,000)	総合誌改訂版	(0)
		その他の事業	(74,980)
その他	(12,000)	資 料 費	0
		雑 費	11,000
その他	170,528	翌年度繰越金	566,700
(合 計)	2,142,352	(合 計)	2,142,352

上記決算については、会計監査を終了しました。
平成5年3月24日

会計監査

内海 紀子
大久保 輝

議案Ⅲ 平成5年度活動方針

来年度の事業活動では、まず懸案の『総合目録』改訂版の発行に力点を置き、次いで会誌『病院図書館』の充実と普及に努めたい。また、逼迫している財政の補強を計るために昭和61年以来据置かれている会費（15,000円/年）の値上げ（20,000円/年）について会員の協力を

得たい。さらに、組織活動では先のアンケート結果に基づき、当協議会組織活動の今後の展望を明確にした上で会の名称について検討を重ねていくことにしたい。

『総合目録』改訂版は外国・国内医学誌の同時改訂、個別誌名記入方式の導入など編集方式の変更、編集委員の病院業務上の理由などから、発行は来年度に持越された。現在はデータの入力段階であるが、事務局からも編集体制への補佐をし、また一般会員の方々の協力も得て早急に発行する。

従来への会報と統合して紙面一新した会誌『病院図書館』は既述のように内外から好評裡に迎えられた。来年度もこれを継続し、病院図書館の充実と発展を促す媒体になると共に、広く会員外にも普及を図りたい。ただし、その経費については予算に占める比率も従来から極めて高く、広告収入や印刷費の節減、購読会員制度などでこれまで凌いできた。

経費についてはこの他にも昭和61年の会費改定以来、通信交通費の値上げ、消費税の導入などがあり厳しい状況となっていた。今年度の会誌の統合では経費の側面から会費値上の案もあったが、とにかく現会費の中で発行し成果をみて改めて検討することにしていた。しかし、来年度以降も会誌の発行を始めとする諸事業を維持していくには現状の会費では会計上、困難となっている（会計報告参照）。したがって、年会費を5,000円値上げして20,000円に、また会誌『病院図書館』の購読費についても現在の4,000円（年）から実費の6,000円（年）にそれぞれ改定することに協力を願う。

次に、当会の名称については先の会員へのアンケートの結果、改称することに賛意を示す回答が多数ではあったが、反対と判断困難も合せると半数に達した。また、会名改称を考える上では当会組織活動の展望を明確にしておく重要性が、賛成反対にかかわらず多く感じられた。したがって、来年度は今後の当会組織活動の在り方をさらに具体的に検討し、その上で改称について結論を出すことにしたい。

この他、研修会の開催や年次統計調査などの継続事業については従来どおり来年度も進めていく。特に名古屋研修会や年次統計調査では今年度に引き続き東海地区会員の協力を期待している。

1. 医学文献情報活動の推進

「医学雑誌総合目録」改訂版の発行、資料分担保存の実現

2. 教育研修活動の継続
定例・名古屋研修会、勉強会の開催、諸研究研修会への案内と参加奨励
3. 出版広報活動の継続
会誌『病院図書室』の季刊発行
4. 年次統計等の調査活動
年次統計と相互貸借の調査、重複雑誌目録の作成
5. 研究活動の継続
ネットワーク研究班のうち特に分担保存の在り方と方法、研究や事例発表への助成金制度
6. 協力活動の地域的拡大
名古屋研修会の開催
7. 年会費、会誌『病院図書室』購読料の値上げによる財政補強

- 首藤 佳子(星ヶ丘厚生年金病院)
 徳田 雅子(大阪府立母子保健総合医療センター)
 前田 元也(西淀病院)
 松井美抄枝(大阪労災病院)
 松本 純子(住友病院)
 山室眞知子(京都南病院)
 山崎 捷子(淀川キリスト教病院)

◎ 会計監査

- 重富 久代(京都市立病院)
 田中 泉美(国立姫路病院)

議案Ⅶ 会長・事務局長承認

議案Ⅳ 平成5年度事業計画

会長は白方誠彌氏(淀川キリスト教病院院長)、事務局長は小田中徹也氏(国立京都病院司書)がそれぞれ承認された。

1. 「医学雑誌総合目録」(外国、国内誌)改訂版の発行
2. 研修会の開催(定例3回、名古屋1回、勉強会数回)
3. 会誌『病院図書室』第13巻1-4号93年の発行
4. 年次統計等の調査、及び重複雑誌目録の作成
5. 分担保存の「医学雑誌総合目録」掲載による事業化
6. 東海地区病院図書室への入会促進活動
7. 年会費を20,000円に、会誌の年間購読料を6,000円に改定

以上を以て第19回総会を閉会した。

議案Ⅴ 平成5年度予算(別掲)

編 案Ⅴ 平成5年度予算

議案Ⅵ 役員改選

選挙管理委員により平成5年度の役員改選が行われ、幹事9名と会計監査2名が選出された。新役員は以下のとおりである。

◎ 幹事

- 加島 民子(大阪回生病院)
 木下久美子(高山赤十字病院)

収入の部		支出の部		
費 目	金 額	費 目	金 額	通 覧
前年度繰越金	506,700	総 会 費	70,000	選挙費用、経費重費用 特別感謝贈礼、交通費
会 費	1,795,000	事 務 費	50,000	振込料、封筒印刷、年 費(印刷)
平成5年度	220,000 × 77	通 信 費	70,000	事務局、各部会費誌、 全員通知用通信費
平成4年度未納	215,000 × 10	交 通 費	250,000	役員会、幹事会、各部 会、個人近畿地区例会
平成3年度未納	215,000 × 4	事 業 費	2,390,000	
平成2年度未納	215,000 × 3	会誌発行費	(1,050,000)	会誌『病院図書室』 13巻1-4号印刷、送料 執筆料、その他
入会金未納(2年)	210,000 × 1	研 究 費	(240,000)	定例研修会2回、事例 報告会、名古屋研修会 初心者勉強会
事業収入		総合目録改版	(800,000)	雑誌総合目録改版 国内・外国版
会誌購読会費	(210,000)	その他の事業	(300,000)	年次統計報告平成4年 重複雑誌目録平成5年
平成5年度	86,000 × 35	資 料 費	100,000	医学図書総合目録 他 協議会運営費
雑誌総合目録	(770,000)	雑 費	476,700	慶弔費、接遇費 他
研修会費	(105,000)			
定例研修会	21,000 × 5			
事例報告会	21,000 × 3			
名古屋研修会	21,000 × 2			
初心者勉強会	21,000 × 1			
その他				
その他				
	3,386,700		3,386,700	